子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業

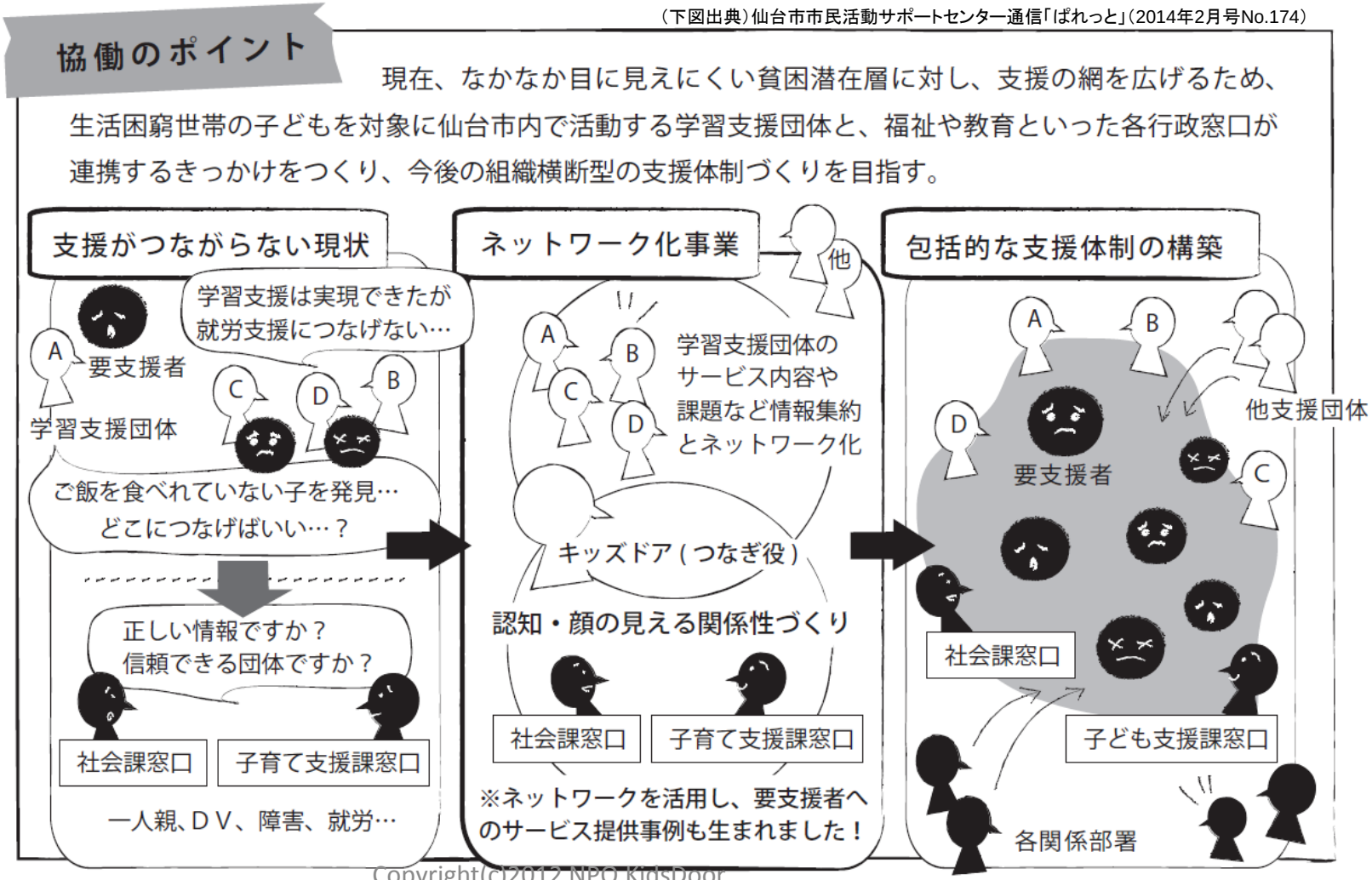
（NPO法人キッズドア× 仙台市健康福祉局社会課× 子供未来局子育て支援課）

【解決したい課題】 **困難を抱える家庭が陥る貧困の構造的再生産（≒世代間連鎖）**

【事業目的】 **各団体・機関が行っているサービスや強み等を把握しながら、関係構築（ネットワーク化）を行い、ネットワーク化会議の実施を通じて、団体毎の強みを生かした現場課題の解決を目指す。**

【協働のポイント】

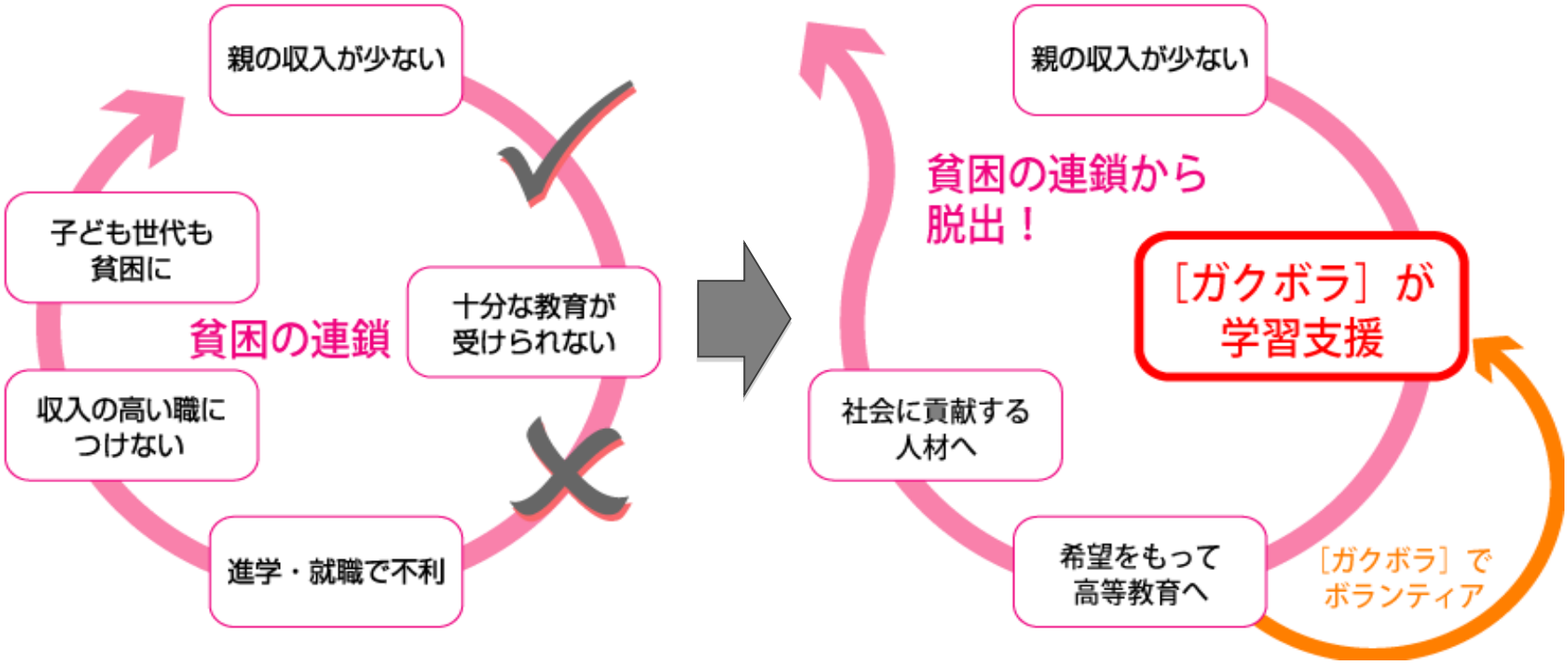
（下図出典）仙台市市民活動サポートセンター通信「ぱれっと」（2014年2月号No.174）



Copyright(c)2012 NPO KidsDoor

【背景】なぜ、キッズドアが市民協働提案制度を利用したか

都市部・仙台市内では世帯収入と学力に相関があるから



社会的価値の算出（例）

Ex .高校に進学できずフリーターから
→生活保護受給　25才～60才
月額8万円を35年受給 総額**3,360**万円

－ ＋

大学→中小企業正社員
生涯賃金2億6000万円
生涯納税額**3,010**万円

＋ ＝

１人当たり
差額
6,370万円

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

【背景】教育支援を入口とした子どもの貧困対策及び貧困の世代間連鎖を断ち切る取組みを行ってきて

困窮家庭の子どもの教育支援（学習支援）を入口とした「子どもの貧困」削減のためのネットワークの構築が必要

①教育費準備・教育相談

◆**情報提供**
東京：チャレンジ支援貸付金
東北：高校生向け給付型奨学金等

◆**教育費準備のセミナー、相談会**
大学進学をあきらめさせない
「うちは貧乏だから、大学は無理」
という保護者の意識を変える

◆**保護者が「読む気」になる教育情報小冊子　の作成配布（※別添資料参照）**
わかりやすく簡単な言葉で、文字は少なめ、大きめ、イラストの使用など

◆**受験対策等の教育相談**
受験までの取り組み方、家庭学習の方法等を相談できる。奨学金手続きの補助等。

キッズドアの学習会

保護者からの申込

・生活保護は受けたくない、物をもらうのは恥ずかしいというような保護者も、**子どものため、特に教育に関しては、積極的に支援を求める**
・学校を経由することで、ほぼすべての子どもにアクセスできる。
ex)仙台市教委との連携で、**学校経由でチラシを配布すると、約10倍の申込あり**

②食料（健康）支援・家計相談

◆**学習会でおやつ等の提供**
成長期の子どもの栄養補給。居場所。

◆**家庭にパントリーサービスの提供**
仙台では、案内した家庭の70%から申込。保護者の精神的な支えにもなる。

③関係機関への連絡窓口

- 世田谷区：　子ども家庭支援センターとの定期連絡会　被虐待の予防や家庭状況の確認、新規生徒の受入など
- 目黒区：　ケースワーカーの方々が生活保護家庭の子どもと接するきっかけ、子どもの支援充実へ
- 仙台市：　学校への案内配布・教室確保（学びの連携推進室）、要支援家庭への案内・困難ケースの相談（社会課、子育て支援課）

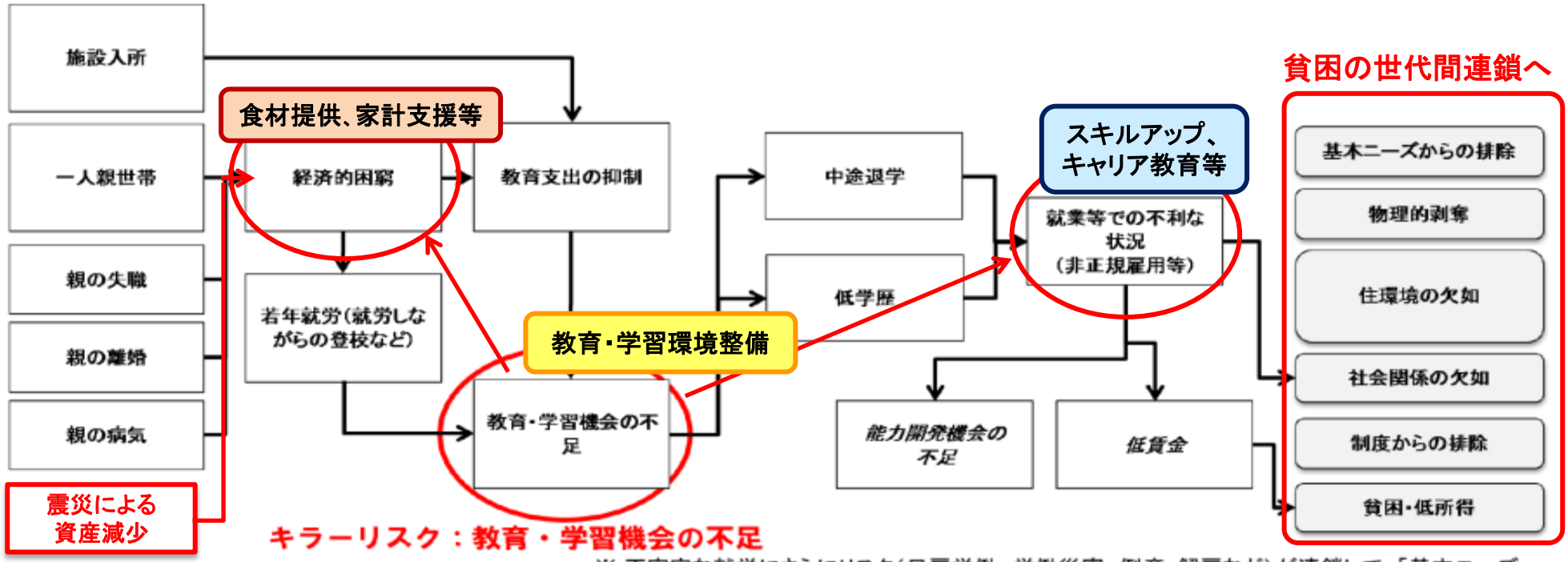
Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

（参考：チャート図で解説）教育支援が窓口となり、生活支援他の貧困の世代間連鎖を断ち切る支援につなげる

「教育・学習機会の不足」および「低学歴」は、非正規雇用などの不安定な就労につながりやすく、不安定な就労は、能力開発機会の不足や低収入につながり、結果として貧困状態からの脱却が難しくなる。また、不安定な就労は、社会とのつながりも弱く、社会や地域との接点の不足などから社会関係の欠如につながることも指摘される。

これに対し、子どもの学習環境整備を行い、学習会等の教育支援等が家庭との窓口となり、食料提供などの生活支援を行うほか、社会性の獲得や能力開発機会を作ることで、貧困の世代間連鎖を断ち切る取組につなげることを目指す。

貧困の世代間連鎖の典型的なパターンの例
（教育・学習機会の不足から社会的排除状態に至ってしまうリスク連鎖分析チャート図）



※ 不安定な就労にさらにリスク（日雇労働、労働災害、倒産・解雇など）が連鎖して、「基本ニーズからの排除」、「物理的剥奪」、「住環境の欠如」、「制度からの排除」につながることも指摘

NRI Copyright（C） 2011 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

出展：「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム　第6回（平成23年5月31日（火））「社会的排除の実態に関する調査―調査結果概要―」

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

（参考）
子どもの学習環境改善にキャリア教育と生活支援を組み合せる

教育・学習環境整備

学力向上による自信
「生き抜く力」の獲得
いじめ、不登校、犯罪の防止
貧困の連鎖の防止

教育

社会保障

申込用紙
<u>食材提供サービス</u>
仙台[タダゼミ]や[ガチゼミ]に
参加する世帯へ定期的に提供

**＋ICTスキルアップ等の
キャリア教育**

**＋食材提供（間接的家計支援）、家計支援
OJT/中間就労、就業支援**

ICTリテラシーの向上
英会話力の向上
異文化の理解・受容

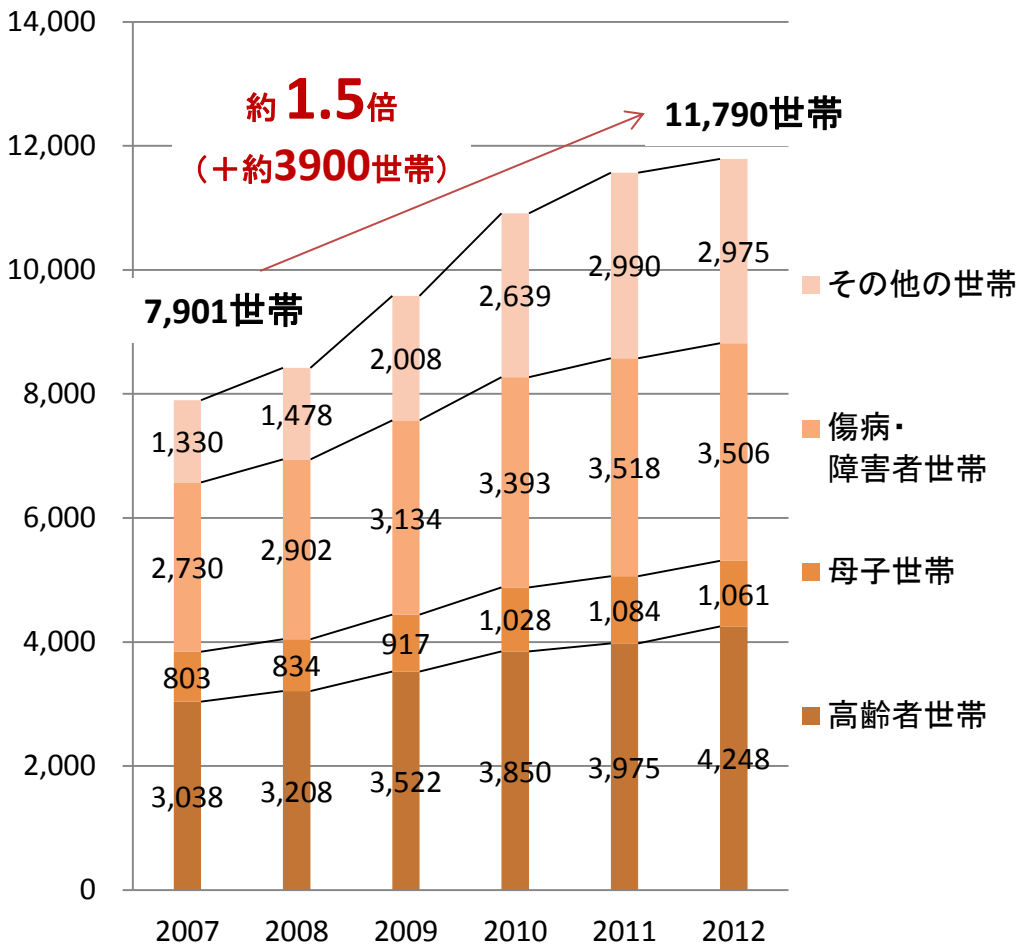
生活資金のつなぎ
次の就職へのつなぎ
コミュニティのつなぎ
教育資金準備

産業・経済

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

【背景】仙台市内の困窮世帯は増加し、事業費が増加している

仙台市　被保護実世帯数



（参考）保護費

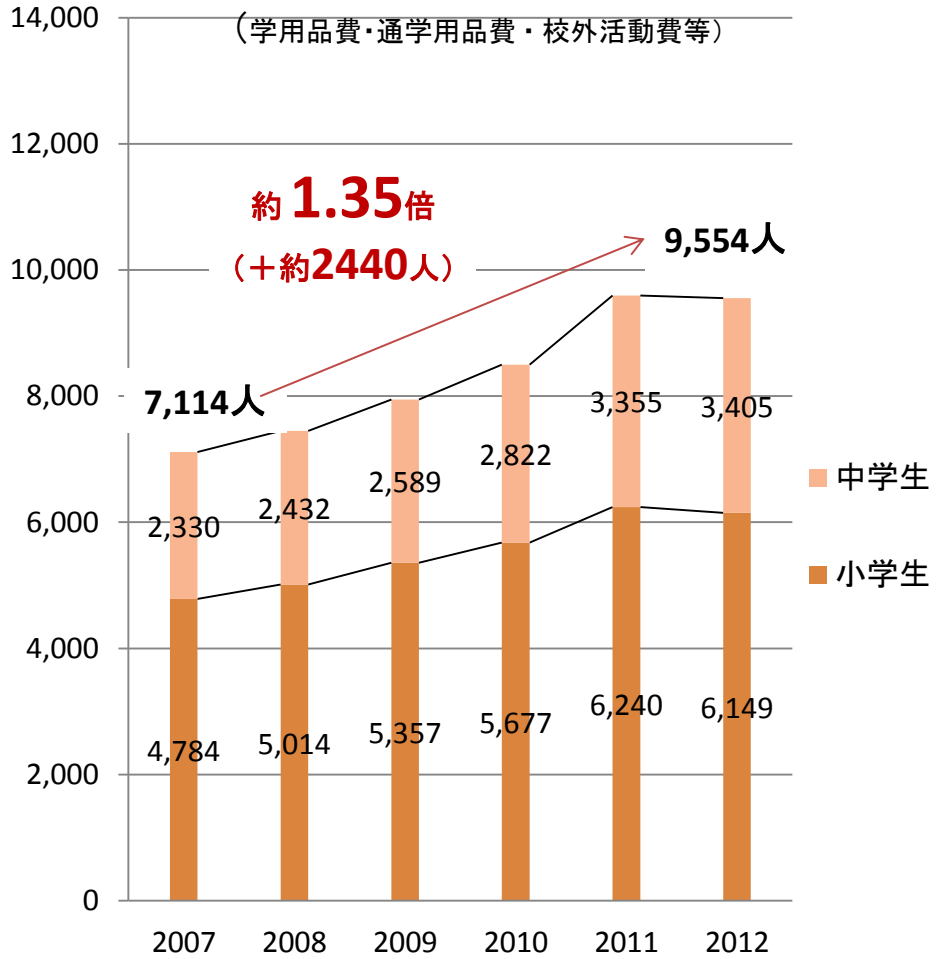
約176億円 → 約257億円

＋81億円

出所：仙台市統計書　健康福祉局健康福祉部社会課

仙台市　就学援助受給人数

（学用品費・通学用品費・校外活動費等）



（参考）就学援助費

約5億円 → 約7億円

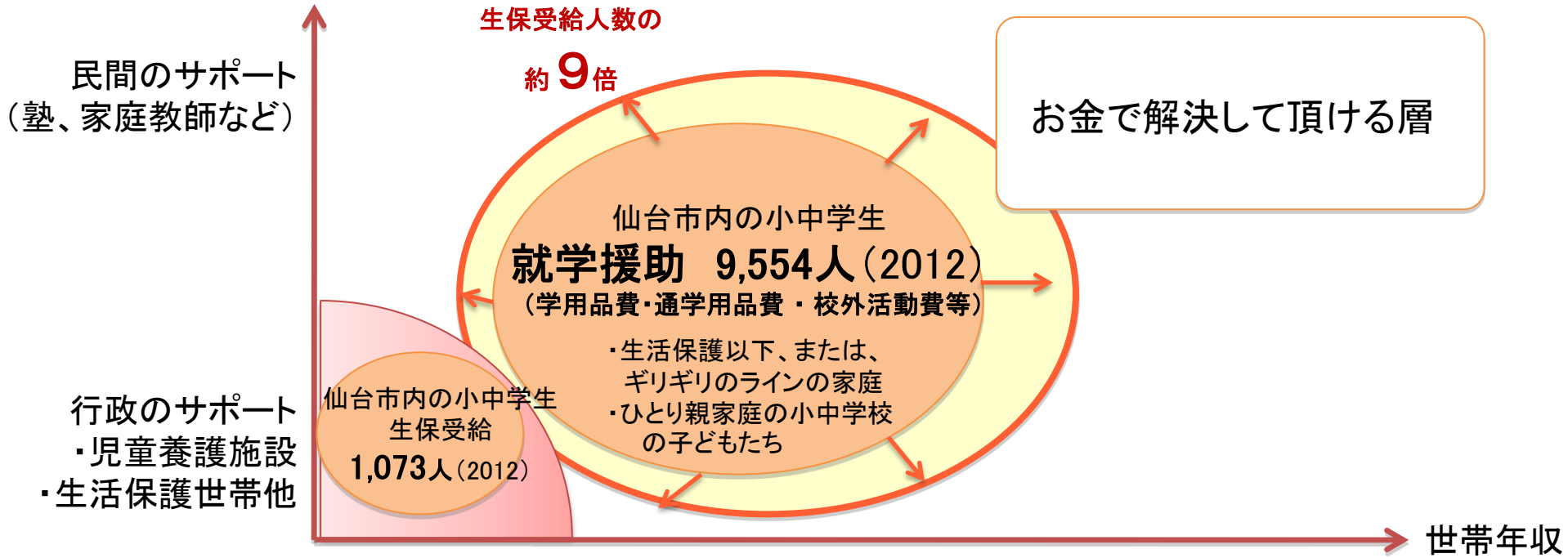
＋2億円

出所：仙台教育要覧　仙台市教育委員会

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

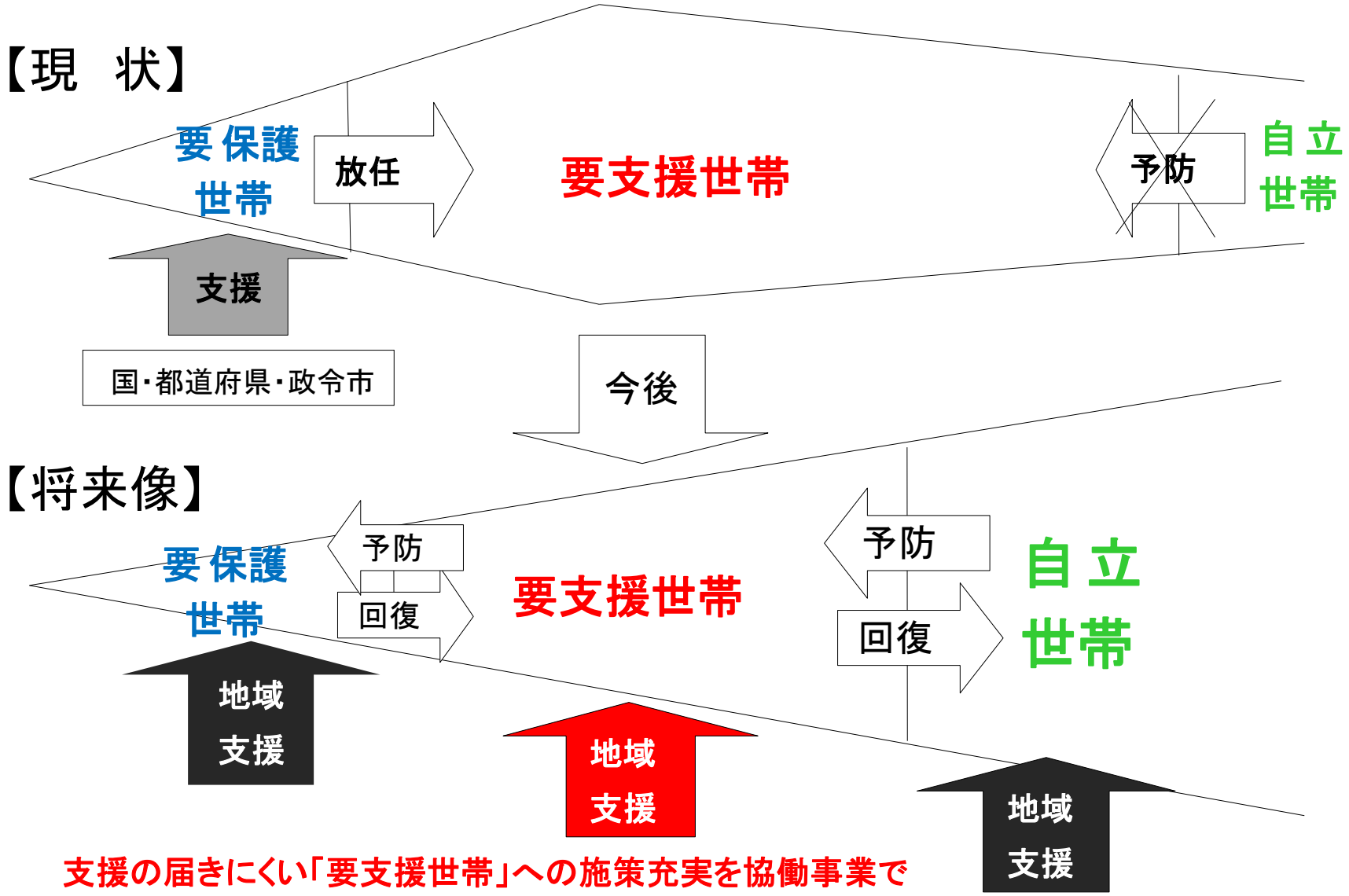
【背景】大多数の要支援者にリーチできる仕組み構築が必要

行政のサポートも少なく、お金がなくて民間サポートを受けられず、
地域のつながりもない「ボリューム層」に　教育支援を入り口にリーチすることで、
格差の拡大、困窮の重篤化を、低コストで効率良くサポートできないか？



Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

【背景】要保護世帯への支援だけは財政的等の限界がある



支援の届きにくい「要支援世帯」への施策充実を協働事業で

出典：森田明美（東洋大学社会学部）「学習支援現場から見える子どもの課題と先進事例の紹介」（2014.3.24、仙台）

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

【背景・まとめ】貧困の世代間連鎖の課題解決のために

1. **貧困の世代間連鎖のサイクルがある**
   生活困窮家庭で育った子どもは、自らも生活困窮家庭を築きやすい

2. **断ち切らなければ、社会保障費が増幅する**
   貧困の再生産を止めなければ社会保障対象者は増加の一途をたどり、国・自治体財政を圧迫

3. **生活保護の補足率は低い**
   生活保護に陥る前の子ども・家庭（要支援家庭）に支援をすることが大事

4. **都市部では、世帯年収と学力には相関関係がある**
   塾等が地域の学力レベルを上げるため、教育投資できない家庭は置いていかれる
   生活困窮家庭への学習支援は、貧困の世代間連鎖を予防するために有効

（参考）仙台市
一般家庭の高校進学率は、99%
一方、生活保護家庭では、91%

5. **子どもの支援は保護者の支援とセット**
   福祉施策（生活保護）と教育施策（就学援助/準要保護）を対象として要支援者の取りこぼしを防ぐ

【3つの挑戦】

- 生活困窮家庭の問題を構造的に解決し、貧困を次世代に連鎖させないための支援体制を構築
- 子どもへの教育・就労支援を核として、官民が部門や組織を越えて連携して包括的に困窮家庭を支援
- 仙台市の潜在的な社会保障対象者を見つけて、サポートすることで、社会保障費を抑制

※厚生労働省「生活支援戦略」の本格施行（2015年）までに、仙台市独自の支援体系を実践を通じて模索する

Copyright(c)2012 NPO KidsDoor

子どもを中心とした困窮家庭への生活支援ネットワーク化事業

事業目的

・家庭の困窮を世代を越えて連鎖させないために、現在、各団体・機関が行っているサービスや強み等を把握する**関係構築（ネットワーク化）**を行う。当年度では、学習支援を行っている団体・機関を中心に関係構築を行う。

・団体毎の強みを生かした**現場課題の解決**を目指す。

・仙台市および困窮者等支援者が**現場で困難が生じている人・世帯を発見した場合につなぎ先が分かり、**
必要なサービスを困窮者へ支援できるように、団体・機関の連絡先情報等を整理する。

・**現場で具体的に困窮者等支援ケースが出てきた際は、必要に応じて団体・機関間で協議を行える**

実施内容

・**協働担当連絡会議**・・・仙台市当局及びキッズドア担当者にて、随時行う。

・**ネットワーク化会議**・・・①団体・機関相互の連絡先交換、②現場課題の把握、③課題解決のために行う。

・**ケース会議**・・・個別ケースについては、ケース毎に単発的な集まる。

・**支援情報サイト**・・・団体情報やイベント情報等を公開する。

・**研修会**・・・事業内容及び成果の発表を兼ねて行う。

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

【事業プロセス】関係者が連携しやすい仕組み作りを行う

実施前

どの団体が、どこで、何をやっているかが不明

	活動場所	サービス	特徴	連絡先	…
キッズドア					
アスイク					
POSSE					
わたげの会					
ﾁｬﾝｽ･ﾌｫｰ･ﾁﾙﾄﾞﾚﾝ					
宮城教育大学					
せんだい若者サポステ					
ジョブカフェ					
…					

?

サービスがあるがバラバラで各所に課題あり

- バウチャー提供 課題
- 学習支援 eラーニング 課題
- 学習支援 個別指導
- 就労支援
- 食材提供 課題
- 金銭給付 課題
- 金銭貸付
- 家計指導
- 労働法教育 課題
- 奨学金等情報提供 課題

現場のケースのつなぎ先が限定的

このケースの解決のために

持ち駒
- 家計指導
- 金銭貸付
- 訪問指導

情報なし
- 学習支援
- バウチャー
- 食材提供

事業プロセス

インタビュー
- 団体・活動紹介
- 課題一覧表
- Webサイト ※サービス紹介

ネットワーク化会議
⇒ 関係構築
連携上の課題解決

ケース毎の単発会議
⇒ サービス連携
現場課題の解決

⇒ 事例勉強会
- ケース資料

実施後

団体毎のサービスと強み弱みを把握

	活動場所	サービス	特徴	連絡先	…
キッズドア					
アスイク					
POSSE					
わたげの会					
ﾁｬﾝｽ･ﾌｫｰ･ﾁﾙﾄﾞﾚﾝ					
宮城教育大学					
せんだい若者サポステ					
ジョブカフェ					
…					

各団体等が把握できている状態

＋

各サービスの強みを生かした連携が可能に

連携図（案）
- 奨学金等情報提供
- 学習支援 eラーニング
- 学習支援 個別指導
- バウチャー提供
- 学習支援 職業教育
- 食材提供
- 就労支援
- 金銭給付
- 家計指導
- 金銭貸付
- 労働法教育

＝

現場のケースに応じた解決策を選択できる

このケースの解決のために

持ち駒
- 家計指導
- 学習支援
- 金銭貸付
- バウチャー
- 訪問指導
- 食材提供

Copyright(c) 2022 NPO 法人 キッズドア

【事業プロセス】現場課題解決のために関係機関との連携強化

学習支援を行う中では、子ども自身の課題の他、家庭の問題にも直面するため、関係機関との連携が必要。
さらに、前提となる日々の情報収集・記録、並びに、適切な対応のために学習支援スタッフの研修が必要である。

学習支援上で発見される課題への対応フロー

関係機関へのつなぎ

予防措置 → 早期発見 → 早期対処 → 取組改善

学習支援事業の運営フロー

計画 → 告知 → 応募 → 選抜 → 学習支援 → 評価

事業運営・人材育成

発見方法や対処方法について共通理解をしておく。
初任者には研修を行う。

事業運営の協力者

- 寄付者
- 事業委託者
- 人材供給元
- その他の協力者

学習支援現場

マネジャー

- 学習支援員
  - 子ども　例　学習障碍
  - 子ども　学力不振
  - 子ども　親が精神疾患
- 学習支援員
  - 子ども　虐待（ネグレクト）
  - 子ども　虐待（性暴力）
- 学習支援員
  - 子ども　極度の困窮

家庭

- 保護者
- 祖父母（介護）
- 里親
- 内縁　他

個別対応策は、実施しながらケース毎に協議

生活支援者

ケースワーカー	家庭生活相談員	保健士	児童相談所
奨学金提供者	学校・カウンセラー	警察	その他

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

事業の成果目標の達成状況

【達成】 要支援者への支援体制 （支援者連絡者会議の設置）

- 担当者連絡会議やネットワーク化会議等を実施して互いの意見を交換。
- 学習支援団体等へのインタビュー等で団体毎の理念や資金源、並びに、サービスと強み弱みを共有した。

【達成】 個別ケースの対応を専門機関につなげる

- まず「社会課」に相談させて頂く。その後、社会課から関係各部に問い合わせる。

【達成】 支援者向け周知用WEBサイトの制作

- 行政窓口が認知しやすいように、支援団体の情報を閲覧できるようにまとめた。
- 地区別、支援内容別、学齢別に支援内容を閲覧可能に。

http://saponet.kidsdoor-fukko.net/

社会課のコメント

ネットワーク化会議等を通じ、学習支援を中心に活動している関係機関の活動内容や連絡先を知るとともに、民間団体及び行政機関相互の認知が進んだ。また、引き続き各団体や行政の抱える課題等の情報交換も行っており、今後のさらなる連携へつながるものと考えられる。

子育て支援課のコメント

ネットワーク化会議を通じて、仙台市内で学習支援を個々に実施してきた各団体の活動内容や活動地域などの情報が明らかになったこと。特に、行政にはない創造的かつ先駆的な企画や取り組みを実施していることが把握できた。また、互いに連携の糸口をつかむことができた。
各団体の連絡先等を交換できたことから、実際に、学習支援団体から行政の支援が必要と思われるケースについて、子育て支援課に相談があった。その後、子育て支援課が区役所家庭健康課につなぎ、行政の支援の有無について学習支援団体へ伝えることができた。実際にネットワークを活用できたことは成果があったと言える。

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

協働したメリット

- 互いの認識・理解が進む
- 仙台市役所内・各区・関連機関と情報共有、調整頂ける
- 隠れた「資産」の発掘につながる（可能性がある）

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

協働における役割分担の課題と学習支援団体の課題

役割分担の振り返り

【キッズドア】

- 事業採択後、当協働事業の目的および役割分担を関係者間で再設定する際に時間を要した。
- １２月に実施した第２回ネットワーク化会議では、要支援家庭の支援現場で活動経験が豊富なオブザーバーに参加頂き、当協働事業の成果目標を再確認するための参考意見を引き出すことができた。

【社会課】

- 提案団体、行政担当課が各々の関係団体、関係部局と連絡調整を行い、会議等で議論を深めることができた。但し、提案団体はコーディネーターであるとともに、ネットワーク化団体の一つでもあるため、負担が大きかったように思われる。

【子育て支援課】

- 個別のケースの相談窓口となる関係部署との調整に時間がかかってしまった。また、関係部署へ「子どもに対する学習支援」及びネットワーク化事業に対する理解を深めてもらうことが不十分だったと感じている。

学習支援団体の課題

- 自治体内での認知度・信頼度が低い状況だった

  以下の理由に基づくものと思われる
  - 知名度がない
    （主に、2011年以降に活動しているところ）
  - 組織基盤が脆弱である
  - スタッフ・ボランティアにおける要支援家庭の学習以外の支援のための専門スキルの習得・スキルアップの機会が少ない（バラつきあり）
  - 自治体との協働経験が乏しい

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor

今後の展開

- **子ども支援システムの開発研究会の立上と運営**

学習支援現場から自治体・専門機関等の支援につなぐ研修とシステム開発を目指して、東洋大学　福祉社会開発研究センターと共同研究を行います。ご興味のある方はぜひ、ご参加ください。参加方法等の詳細は、添付資料をご参照ください。

1. スタートアップ研修とシステム開発研究会

- 日にち：第1回目　2014年5月29日（木）
  第2回目　2014年7月3日（木）
- 時　間：10：00～15：20　（15：30～17：00　システム開発研究会と実践相談タイム）
- 会　場：NPO法人キッズドア東北本部事務所 兼 グローカル・ラーニング・ラボ（宮城野区榴岡4-1-8　パルシティ仙台1階C）
- 内容：「学習支援におけるマネジメントの必要性と可能性」、「インテークワークの進め方とネットワーク活用の実際」、「子どもの声を聴く、子どもにとっての居場所の力」、「事例検証の進め方」

2．ステップアップ研修とシステム開発研究会

- 日　時：2014年9月以降予定
- 内　容：学習支援から自治体・専門機関等の支援につなぐ時に必要なネットワークの形成と運用について学ぶ。

3. 専門研修とシステム開発研究会

- 日　時：2014年度内予定
- 内　容：事例研究を中心に、ネットワークの組み方や事業の企画・施策立案について学ぶ。

- **支援者向け周知用WEBサイトの更新・運営**

- **個別ケース対応の窓口専門機関を増やす**

特に、生活保護ケースではない家庭の場合に、学習支援団体が家庭別につなぎ先を選択できるかがポイント。特に、教育局・学校ルートについて調整が必要。逆に、「どんな場合」に学習支援団体につなぐかについても継続して検討する。

現状	学習支援団体　→　社会課
理想	学習支援団体　↗　社会課　→　CW →　子育て支援課　→　保健師 ↘　学びの連携推進室　→　学校・SC

Copyright(c)2011-2014 NPO KidsDoor